

司式: 佃 雅 之
奏楽: 橋本恵美子

前奏:

招詞: 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。(ヨハ3:16a)

讚美歌 83「聖なるかな」

交読詩編 27:1-6

- 01 【ダビデの詩。】主はわたしの光、わたしの救い/わたしは誰を恐れよう。主はわたしの命の岩/わたしは誰の前におののくことがある。
- 02 さいなむ者が迫り/わたしの肉を食い尽くそうとするが/わたしを苦しめるその敵こそ、かえって/よろめき倒れるであろう。
- 03 彼らがわたしに対して陣を敷いても/わたしの心は恐れない。わたしに向かって戦いを挑んで来ても/わたしには確信がある。
- 04 ひとつのことを主に願ひ、それだけを求めよう。命のある限り、主の家に宿り/主を仰ぎ望んで喜びを得/その宮で朝を迎えることを。
- 05 災いの日には必ず、主はわたしを仮庵にひそませ/幕屋の奥深くに隠してくださる。岩の上に立たせ
- 06 群がる敵の上に頭を高く上げさせてくださる。わたしは主の幕屋でいけにえをささげ、歓声をあげ/主に向かって賛美の歌をうたう。

朗読聖書①イザヤ書 60:1-6

◆栄光と救いの到来

- 01 起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り/主の栄光はあなたの上に輝く。
- 02 見よ、闇は地を覆い/暗黒が国々を包んでいる。しかし、あなたの上には主が輝き出で/主の栄光があなたの上に現れる。
- 03 国々はあなたを照らす光に向かい/王たちは射出するその輝きに向かって歩む。
- 04 目を上げて、見渡すがよい。みな集い、あなたのもとに来る。息子たちは遠くから/娘たちは抱かれて、進んで来る。
- 05 そのとき、あなたは畏れつつも喜びに輝き/おののきつつも心は晴れやかになる。海からの宝があなたに送られ/国々の富はあなたのもとに集まる。
- 06 らくだの大群/メディア人とエファの若いらくだが/あなたのもとに押し寄せる。シエバの人々は皆、黄金と乳香を携えて来る。こうして、主の栄誉が宣べ伝えられる。

朗読聖書②マタイによる福音書 2:1-12

◆占星術の学者たちが訪れる

- 01 イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、
- 02 言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」
- 03 これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。
- 04 王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているかと問いただした。
- 05 彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。
- 06 『ユダの地、ベツレヘムよ、/お前はユダの指導者たちの中で/決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、/わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」
- 07 そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。
- 08 そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。

09 彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。

10 学者たちはその星を見て喜びにあふれた。

11 家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

12 ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

祈祷

私たちの命の源なる神さま、あなたの聖なる聖名を褒め称えます。

父なる神さま、あなたは私たちのために、またこの世界の救いのために、独り子イエス・キリストを地上に御遣わして下さり、御言葉と徴によって私たちが救いへと向かう道を鮮やかに示してくださいました。私たちは先にお献げしたクリスマス礼拝において、共に天使のメッセージを聴き、大きな喜びを与えられましたことを心から感謝いたします。多くの兄弟姉妹と兄弟姉妹たちの家族を、また新しい友をこの教会へと呼び集めてくださいましたあなたの恩寵、その恵みを心から感謝いたします。

愛そのものである神さま、今年も様々なことがありましたが、私たちはあなたの導きにより、恵みの内にこの一年を終えようとしています。しかし主よ、この一年を振り返るなら、私たちは数多くの罪を犯して参りました。あなたが与えてくださった御言葉に聴き従うことができず、為すべき愛の労苦を果たすことがなく、また為すべき祈りを怠り、愛なき日々を歩んだ者であったことを、ここに告白致します。主よ、わたしたちの過ちと罪をお赦しください。この朝、私たちを全く新しい者へとしてください、私たちを主の僕に相応しく、深い思慮と配慮、優しい言葉を語れる者へと造り変えてくださいますように切に御願い致します。私たちがあなたからこの朝戴く新しい御言葉で、この一年賜りました数々の良き事を心の内に思い返すことができるようにしてください。そして、その恵みに感謝して、あなたからの語りかけをもう一度受け取り直すことができますように。

慰め主よ、私たちには病床にある友がいます。自分の思うように動かすことのできない痛む体、弱った体に、切なさを感じて過ごしている友がいます。また、その友のために介護に仕えている者がおります。主よ、どうかその一人ひとりをあなたが訪ね、慰めてください。ここに集うことができなくても、あなたがいつも共にいて下さることを信じ、あなたが共にあることを感じる事が出来る靈性を与えてくださいますように御願い致します。

平和の主よ、地に平和をもたらしてください。暴力の上に平和が築かれることは決してないことを悟らせてください。地上の権力によって自分が神のようになろうとするのではなく、真の神は地上に下り、この世の弱さに、貧しさに、小ささに寄り添ってくださる方であることを気づかせてください。今、戦禍にある地が、あなたに赦され、あなたと和解し、あなたの平和の御支配の下に置かれますようにと切に祈ります。

聖なる神さま、今この日本の、また、世界の各地で礼拝を献げている全ての教会を御心の内に覚えてください。キリストの名による全ての教会が新しい年にもなお、望みを持って、主の体に相応しく歩み行くことが出来ますように。私たち一人ひとりがあなたの神殿であることをわきまえ、肉体と心を大切にし、私たちがこの身からキリストの香りを放ち、時を得て

も得なくても福音を証しすることが出来ますように、あなたの助けを切に祈りを求めます。

神さま、今朝立てられた説教者を感謝致します。御言葉を取り継ぐ者に聖霊を豊かに注ぎ、大胆に救いと希望の福音を語ることが出来ますように。聴く私たちが導かれ、あなたの御言葉に生きる決意を新たにすることが出来るようにしてください。

これらの祈りを主イエス・キリストの聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌 214「わが魂のひかり」

説教「ベツレヘムからの光」

鮎川健一

2024年のクリスマスを様々な時を経て主の恵みの内に与えられ、キリスト教会は新年を一早く迎えました。暦を新たに降誕節と進み、いよいよ2024年という年の区切りを目前に、いつも以上に思い巡らす時ともなっています。クリスマス期間は翌年1月6日の公現日、また栄光祭と言いますが、その時まで続きます。カトリックの新教会暦では、公現日の直後の日曜日、主の洗礼の祝日までが降誕節です。それは復活日と共に、降誕日のみが固有の8日間の祝祭日として守られ、その8日目は1月1日マリアの日、それを迎えてからのことです。プロテスタント教会ではクリスマス期間はありませんが、諸聖人の祝祭はありません。しかしルーテル教会などでは若干の違いはあるもののカトリックと共通な部分が多くあります。聖書日課では、教派を越えて毎年マタイ福音書2章1節が定められています。

思い起こせば私たちはクリスマスの時、輝きに満ちたベツレヘムの星を心新たに受けとめました。この星が輝いたのは、東の方から来た占星術の学者たちを導くものだったと聖書は記します。以前の聖書では彼らを「博士」と表記されていましたが、私たちは今一度、恵みの光に導かれつつ、その意味を聞くこととなります。この星が導く所は実際、目的地がわからない状態でした。しかし学者たちは、その星を頼りにエルサレムに辿り着きました。ベツレヘムという小さな町、その街に程近い所まで来たとしても、どこで救い主がお生まれになったことか、その時には知り得ませんでした。彼ら自身がこの出来事に遭遇することさえ、予想だにしない神の恵みの内にあることを知らされます。この星が美しいとか、大きな星とか、名をなんと呼ぶものかよりも、主の輝きの導きの星として、その星を見ながら遙々長旅を続けてきました。彼らは「東の方から来た占星術の学者たち」です。彼らはユダヤから遠く離れた国、アッシリアやバビロンまたはペルシャだった言われます。それは象徴的かつ具体的です。まさに異邦人の国の人々であり、ユダヤ人にとっては歴史的な重大事件なるバビロン捕囚を思い起こす、そういう、自分たちを神から引き離れた神を神としない国の人たちと重なります。しかし彼ら異邦人は、神の御子イエス・キリストを知ることとなります。またこの学者たちが三人であることが、童話的情景をもって、降誕劇の見せ場にあります。その事実をマタイは記していません。それはただ御子イエスへの献げ物が「黄金、乳香、没薬」の三つだったことから、2-3世紀に活躍したエジプトのアレキサンドリアという町にいたオリゲネスという神学者が位置づけたもので、それら三人の博士として定着し今に至りますが、更には彼らに名前がつけられているということもご存じかと思いますが、メルキオール(Melchior)、バルタザール(Balthasar)、カスパール(Caspar)です。夫々の名前には意味があるのですが、いずれにしても三人の象徴的な意味は三大陸、ヨーロッパ、アジア、アフリカ

(当時アメリカ大陸は未発見)、そしてまた夫々に老人、壮年、青年となっています。実際、ミュンヘン美術館に掲げられているデューラーの絵画が有名です。伝説や美術作品は如何にあれ、「三人」以上のこと、これは史実的には想像できます。それは彼らが何を拝みに来たのか、何を見るために労を惜まず、遙々ユダヤまで来たのかにあります。それはまさしくこの世の救い主、神の御子イエスの御前にめかずくためでした。しかも彼らは「占星術の学者たち」です。元の言葉は「マゴス(μάγος)」と言います。英語の「マジック(magic)」の元です。魔術師、占い師、新しい訳本では「占星術師」と記します。彼らは書齋に籠もって研究する者たちではなく、常に外に出て観察研究をしている、その彼らが星の動向を観察しながらユダヤに辿り着いたということは、聖書的に「占星術の学者たち」とは理に合っています。しかしクリスマスは、ユダヤから忌み嫌われる異邦人、それも占星術の学者たちに真実なる大きな喜びが与えられ、神の御子、幼子イエスと出会ったことが、羊飼いの場面と同様に驚愕的な出来事です。もう一つの関連は、「東方見た星」です。この事態は、「それが昇っている時に、その星を見た」となります。実際この時の天体現象は様々ないわれがありますが、いずれにしても今から2千年も前、精密な観測機器や研究材料のない時代、ガリレオやコペルニクスの観測以前の時代にあった彼らが、敏感にこの星の動きを捉えたことは、救い主メシアの待望が当時ユダヤ人だけの話題ではなく、ローマ国内の非ユダヤ教徒たちの心を広く捉えていたこととなります。『ユダヤ人の王』がユダヤ人ならざる者にとっても、礼拝すべき者として現れることが期待されていました。そこには預言者の言葉を通して直接的間接的に異教徒たちや異邦人らの心が開かれていたとも言えます。

しかし聖書は詳細を語らず、導かれた場所を記すのみです。それはマタイ独特の表現とも言えますが、この場所はイエス・キリストとは敵対する所でした。神の御業は誰も予想だにしないことが常です。しかもそこに喜びや神の恵みがあるとすれば、人の思いの入る余地はありません。ですから彼らはユダヤの絶対権力者ヘロデに、何の疑いも無く聞いたのです。しかし彼らの発した言葉にヘロデ王は不安を抱きました。この不安は、のちに記された記事、水の上を歩く主イエスの姿を見て弟子たちが恐怖を抱いたことと同じで、不信仰な心に神が触れることをマタイは記します。ヘロデにとっては、神の出来事によって自分の生き様や地位・権力が失われると思ったのです。そしてヘロデは「わたしも行っておがもう」と言って冷静さを装い、学者たちに実態報告を求めたのです。しかしこれは彼の策略で、新たな王の誕生を誰よりも望まず、後の記事のように、二歳以下の男児をことごとく抹殺する計画を謀り、多くの幼子が犠牲となりました。一見、悪魔の策略と見えますが、これでさえ神のご計画の内に置かれていたことです。そう言うと、幼子の命はどうでもいいのかと食ってかかる人もいますが、そういう意味で神の御計画を正当化する話ではなく、御子イエスがのちに十字架につけられることも、この王の抵抗も、キリストに対する民衆の反逆も、全てが十字架に向かう序曲としてあることを知らせているものであり、事実私たちは既に知らされています。またこのヘロデの行動は人間の根幹が示され、クリスマスにおいて神が救おうとされる人間がどのようなものであるか、どういう人間が救われるものかを示しています。聖書は「エルサレムの人々も皆、同様であった」(3節)とヘロデと同じ不安を抱いていたことをはっきりと記します。この只中で、宗教指導者である祭司長や律法学者たちは旧約聖書の箇所を重ね合わせて、ヘロデの問いに答えました。

「エフラタのベツレヘムよ、お前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのためにイスラエルを治める者が出る。」(ミカ 5:1)と、また「わが民イスラエルを牧するのはあなただ。あなたがイスラエルの指導者となる」(サム下 5:2)との言葉を重ねたのです。

しかし彼らもベツレヘムには心が向かず、それでも彼らの口を通して神の的確な約束が語られます。星に導かれて救い主の敵陣のエルサレムに上り、さらには「神の御言葉」によって、その場その時の行く先を示します。異邦人の学者たちをぬかずかせ、ユダヤの王も民も不安に置きながら、神の言葉が現実化される。ベツレヘムに対しても、決して最も小さいものではないと言ひ得ることも、権威や偉かさによるのではなく、まさにそこに真の王であられる救いの神、御子イエスがお生まれになられるただ一点に尽きるのです。また本来、無きに等しいとされていた異邦人、しかも異教的な知恵の代表者、占星術の学者という預言者の批判を真っ向から浴びる東方の賢者への神の眼差し、それは神の自由な恵みの御業です。エルサレムが御子イエスを十字架につける場所となったことに比べれば、ベツレヘムは自分の意志とは反して、御子イエスの最初の宿となる光を与えられたのです。その光に導かれて学者たちは幼子のいる家に入って、母マリアと共におられる幼子を礼拝したのです。この時は御子の誕生からかなり時間が経っています。馬やラクダに乗って何日も何週間もかけて来たこと以前に、瞬時に聴いた出来事ではなく、人づてに話を聞いたものです。今のように全世界の情報が瞬時に分かるのとは全く違うわけです。「みどりご」(イェレブ (יְלֵד)) (イザ 9:5)から「幼子」(イェイディオ (παῖδιον))へと時間経過があることも理解できます。彼らは国や宗教を越えて喜びに満ちています。

では、私たちはどうでしょうか。本当の喜び、本当のクリスマスを祝い、受け止めていると、どこで知り得るでしょうか。またの私たちの知っている喜びや出来事が、父なる神の御心に適っているかなど、どこで知り得るでしょうか。すべては神から私たちに与えられるもの、頂くものです。このことからクリスマスの出来事を問い直します。

先にも申しましたように、三つの献げ物と三人の数が定着していますが、献げ物の意味を歴史に歩む教会は様々に見てきました。それは主イエスが、真のユダヤの王ということから、「黄金」は「王のしるし」、「乳香」は祈りの時に用いられることから「神のしるし」、「没薬」は、当時、死体に塗られるところから「十字架の死の苦しみ」を想起すると理解されてきています。更には、「王としては裁き」、「神としては復活」、「人間としては死」、このことから常に身に付けていたもの、そのものを強調する意味でもこの言葉が輝きのぼります。キリストの三つの業を含む、これが十分にわかるものと見えてきます。ルターの若いときの説教では、「イエスは王にして神であり死すべき方」との信仰告白が強調されています。それと同時に、「宝の箱を開けて」と記されていることから、それは占星術に必需品となる商売道具だった。彼らは占星術師であり、このことに没薬は呪いの文章を書くときにインクに混ぜて用いられたということです。そのことが呪いを書く、呪文を書く、その力になった、そこに託されているものが重なります。仕事道具を献げることは、そこで自分たちの今までの商売行為、生活自体から決別する宣言をしたこととなります。それはあのレプタ銀貨二枚すべてを献げた貧しいやもめ(ルカ 21:2 並行)のように、またナルドの香油を献げた女(マタ 26:7 並行)とも重なります。どれもが日常生活の只中で迎えた出来事です。全く次元の異なる所で起きたわけではありません。主の弟子たちもガリラヤ湖での漁で主と出会い、主に従い行く生活に変えられていった者たちがいました(ルカ 5:1-11 並行)。そ

れぞれ置かれた状況は異なりますが、自分自身の生活が他の人々に対してベツレヘムの星となるような、信仰的証的生活をするように、この星が示していると言えます。輝く一等星でなくとも、誰も知らない小さな星であったとしてもキリストの御前に人々を導くような星、キリストの光となるように願うことが大切でしょう。アドヴェントの期間、ロウソクの火を信仰のともし火、真の光として受け止めました。主の救いの光に照らされて、私たちの生活に新たな方向が示される、それがクリスマスです。星が止まった。天文学的には星が地球から遠く時、地上から見れば同じ軌道に重なるため動かないと錯覚しますが、聖書的には預言者たちが受けた約束が成就したことを知らせる時、それを迎えた異邦人の眼差しに向けられた光として「留まる」(止まる (βίστημι ἵστημι [立ち止まる]))と表現されています。時の権力者へロデの殺意が浮上する中で、救い主は無力な姿でこの世に来られました。その弱さの中で神による真の王が隠されており、御子イエスの真実を受け留めたことから、幼な子にひざまずくことができたのです。そして神に従って、これまで来た道とは異なる新たな道から自分たちの国へ帰り、主の道を歩む者とされました。私たち自身もこれまでの生活を脱して主の御前にぬかずく時、幼子イエスをキリストとして心の内に迎え入れることができるのです。

クリスマスの恵みを受けて今あるを想うとき、「地には平和、御心に適う人にあれ」(ルカ 2:14)と願いつつ、「神、我といましたもう」ゆえに「我、神と共にいます」とのインマヌエルの信仰告白を心深く持ちます。これからの日々、ベツレヘムの光を見いだし、真の光の中で歩み続けたいと願います。

祈りを献げましょう。

暗き世に真の星の光を以て照らし、彷徨う人々を導き給う御子イエス・キリストの父なる御神さま、クリスマスの恵みの内に礼拝を共々献げられ感謝致します。

ベツレヘムの地より御子イエスのご降誕が実現されたようにまた異邦人である占星術の学者たちに知らされ、彼らの生き方が変えられたように。私たちがあなたの出来事の中に置かれていること、今一度思うところです。生涯東方の学者たちに与えられた信仰に倣うべくして歩めますように。来る年の歩みも、あなたに導かれ、守られますことを切に願います。

今この時、礼拝を献げている諸教会を祝し用いてください。共にある祈りを御心のままに聴き上げてください。共にある祈りともに尊き主の聖名によって御前に御献げ致します。アーメン。

讚美歌 278「暗き間に星光り」

献金・感謝・主の祈り(水上朋子)

父なる神さま、主にある兄弟姉妹と共に礼拝を献げることが許されましたことを感謝致します。

説教を通して豊かに御言葉を与えてくださり感謝致します。私たちがこの1週間を夫々の旅路の中で御言葉を糧として歩むことができますようにお導きください。

私たちは必要な物を与えられ、主の僕として生きることが許されていることを感謝致します。今、夫々が与えられた物の中から感謝と献身の徴を御前にお献げ致します。どうぞ祝して教会の御用のために用いてください。

主が教えてくださった主の祈りを共に祈り、新しい日々を迎えさせてください。「主の祈り」…アーメン。

讚美歌：88「心に愛を」

派遣：願わくはこの世を救い、真の命をもたらし給う主イエス・キリストの恵み、慈愛に
富み給う父なる神の愛、汚れを清め、御力を伴い給う聖霊の親しき交わりが、ここから遣
わされていくあなた方一同とともに、今も後も永遠にあるように。アーメン。

報告：会員消息：12月13日(金) 中原昭二郎さんが逝去されました。97年の
地上でのご生涯でした。葬儀は近親者によって執り行われたとのこと
です。中原さんが御国で安らかでありますように。またご家族の方に特別
な慰めがありますようにと祈ります。以上謹んでお知らせいたします。
(佃雅之主任担任牧師)

後奏：「古い年は過ぎ去り」 (J.G.ワルター)